

平成30年度 学校評価シート 島根県立江津高等学校

評価：4(十分に達成できている状況) 3(おおむね達成できている状況) 2(どちらかと言えば達成できていない状況) 1(ほとんど達成できていない状況)

教育目標		重点目標	担当分掌等	具体的目標	江津高校の教育活動	校内評価	来年度への取り組み	学校関係者評価			
【校訓】 思慮 高邁 貫徹	誠実を尊び真理と正義を愛し、合理的精神に富む人物の育成	意志強固にして勤勉努力する実践的人間の育成	豊かな特性をそなえ和合協力してことに当たる人間の育成	【めざす生徒像】 地域が持続的に発展するよう、自らを地域課題の当事者として自覚し、気配りと熟考の上、初志を貫き通す生徒	生徒が出会いを通して感動し、意欲的になる機会を与えます。	総務部	全教職員の共通理解のもと、学校行事を円滑かつ組織的に行う。	・式典・避難訓練などの運営に加え、学校行事の行事の精選を図る。 P T A広報誌『星高』 ・学校行事の立案計画を迅速に進めるとともに、行事の精選を勧める。	3.5	【総務部】 ・わかりやすい情報提供のために学校便りをカラーにする。 ・PTAの専門委員会を再検討し、保護の参加しやすいう運営をする。 【教務部】 ・I C T機器の利用をすすめる、わかる授業に努める。 ・学校以外も含め、読書（電子書籍も含める）体験の場を作る。 ・家庭学習時間の増加のために検討を進める。 ・自主学習の方法について生徒への説明会を実施する。 【生徒部】 ・部活動の施設・設備の整備を予算を調整しながら行う、部活動の運営には生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。 ・学園祭の企画運営を早期よりすすめる、暑さ対策等万全な配慮の元、無理の内容に実施する。 ・服装規定など全教職員の共通理解を図りながらすすめる。 ・いじめ対策について迅速かつ丁寧な聞き取りを行う。 【進路指導部】 ・受験報告様式など生徒が記入しやすいものに変更する。 ・生徒ひとり一人にあわせた進路情報を提供する。 ・学校・家庭と連携をとりながら生徒の進路実現に取り組む。 ・共通テスト導入など新しい入試情報をわかりやすく提供する。 ・強化と連携し、共通テストへの対策を推進する。 【事務部】 ・校内施設設備の点検等を実施し、安心安全な環境整備を図るとともに危険の未然防止に努める。 ・適切な予算管理、保護者の負担軽減への生徒周知を図る。 【学年部】 ・自発的な読書週間確立のために継続的な声かけをすすめる。 ・いじめの早期発見と再発防止のために、アンケートや面談を繰り返し、安心感のある学校生活を保障する。 ・家庭学習の増加のために、学習の意義、学習方法の説明を行い、教科と連携し課題の調整に努める。 ・スマートフォンの使用について、家庭での使い方の見直しをさせる。 ・進路意識の成熟のための仕掛けを工夫し、生徒面談を繰り返す。 ・学習面、生活面、対人関係において困難を抱える生徒に対し気を配った指導を継続する。	・高校生が、実際にU、I、Jターンされた方の体験談等を聞くことは、良い経験になると思う。特に、年代の近い方の話など、身近に感じて共感を持てるのではないかな。 ・他校の先生から、「生徒の地域交流を進めようとしても、自発的な参加は得られにくく、立案から実施までの煩雑な作業が多くて大変である。」という意見を聞いたが、江津高校の生徒は、いろいろな地域活動によく参加してくれていると感じている。 ・最近では、地域理解を深め、地域に貢献できる生徒を育てることに重点をおかれている印象がある。それも大切な事ではあるが、ある意味、過疎化に悩む「大人の都合」を押しつけることにならないか、危惧することもある。 ・高校生には、グローバルな世界で活躍できる視野を持ち、大きな夢をもってほしいと考えている。そのためにも、潜在能力を伸ばすような指導にも力を入れてほしい。 ・小中学校で、ふるさと教育がしっかりなされれば、高校では似たようなふるさと教育を重ねて実施する必要もなくなる。
					教務部	読書に対する興味関心を高め、多様な知識や教養を身につけようとする態度を養う。	・図書館だよりを毎学期に2回発行する。 ・年2回の読書週間を実施する。	3.6			
					生徒部	様々な活動をとおして、生徒ひとり一人の人権を尊重、豊かな特性をそなえ心身ともに健やかな人間を育成する。	・生徒会活動や部活動・ボランティア活動等をとおして、生徒が自己有用感を高められるような取り組みをおこなう。 ・支援を必要としている生徒に対して、関係する教員等で連携しながら対応する。	2.9			
					進路指導部	進路実現のための基盤となる学力の定着・充実・向上を支援する。	・3年学年部と連携し、進路別補習を計画・実施する。 ・学年部と連携し、スタディサポートを計画実践し、各学年の報告会や検討会を通じ生徒の学力の定着及び向上を図る。	3.4			
					学年部	1年：自己理解や地域理解を深め、進路選択の基盤を作る。 2年：様々な活動を主体的に行う。 3年：地域・社会の課題を意識した上で、進路設計を考えさせ、自分に必要な実践を把握させる。	1年：キャリア学習や地域との連携活動などで、目的を共有し活動し、他者とのつながりや自己のあり方について進路サポートを活用し明確にする。 2年：中堅学年としての役割を意識し、他者に配慮した言動が出来るようになる。 3年：自ら進んで「挨拶」する態度や、「思いやりのある言動を身につけさせる。	3.2			
					事務部	・学校施設・設備の安全・安心な環境整備に努め、環境を整備する。 ・学校予算の効率的・効果的な運用を行う。	・定期的な校内の巡視を行い、随時点検を実施するし、問題が発生した場合、適切に対応する。 ・適切な予算管理と執行をし、生徒への就学支援と保護者の負担軽減を図る。	3.6			
					教務部	主体的な学習習慣を身につける。	・各授業担当者に、宿題、課題の定期発行を働きかける。 ・学習時間調査を通して、生徒個々の学習時間を学校全体で共有する。	3.1			
					生徒部	・学校生活や部活動をとおして生徒が意欲的・自発的に行動することを支援する。 ・校内環境を整え、健康の大切さを意識させるとともに、生徒支援に配慮する。	・ホームルーム活動・教科活動・部活動などとおして、段階的、系統的な人権教育の推進を図り、自他を互いに尊重できる集団づくりに取り組む。 ・校内外の研修により生徒教職員の人権意識を高め、よりよい人間関係の構築を図るための実践に取り組む。 ・集団活動をとおして、社会生活のマナー・モラルを要請し、他者の思いを理解しながら自分のあり方やふるまいなど生き方を模索する態度を育成する。	3.1			
					進路指導部	進路意識を早期に育て、自らの進路実現に向けて主体的に立ち向かう力を育てる。	・進路希望調査、検討会等を通じて的確な情報を生徒に提供する。 ・オープンキャンパス・体験活動・説明会等への参加を生徒に促す。	3.4			
					学年部	1年：基礎的な生活習慣と学習習慣を身につける。 2年：自己の課題に気づき、進路目標に向かって学習を意欲的に行う。 3年：自己の課題を意識して、学習に取り組ませる。	1年：語先後礼、気持ちの良い挨拶、校則に則った身だしなみなどルーラーの遵守と生活リズムの確認と個々の課題の自覚を促し、学習習慣の定着を図る。 2年：学習目標や進路目標を意識して家庭学習に取り組むことができる姿勢を確立させる。 3年：学習時間を確保し、自己の課題の確認と修正を行い、意識の向上につなげる。	3.2			
					総務部	広報活動を充実させ、P T A・地域との連携を図る。	・ホームページを中心にP T A広報誌「星高」・「学校だより」等で情報を発信し、工夫・改善を進める。 ・P T Aや江星会と連携し、各種行事を円滑に進めて活性化を図る。	3.4			
					生徒部	多様性を尊重し、人間関係力を高めるとともに人権感覚を磨く。	・ホームルーム活動・教科活動・部活動などとおして、段階的、系統的な人権教育の推進を図り、自他を互いに尊重できる集団づくりに取り組む。 ・校内外の研修により生徒教職員の人権意識を高め、よりよい人間関係の構築を図るための実践に取り組む。 ・集団活動をとおして、社会生活のマナー・モラルを要請し、他者の思いを理解しながら自分のあり方やふるまいなど生き方を模索する態度を育成する。	3.4			
進路指導部	進路探究学習を通じ、広い視野を持ち、地域社会に貢献する力を育てる。	・三瓶研修での進路学習（進路ミュージカル）、進路サポート（進路探究ワーク）、インターシップ、課題研究発表の計画的な実施。 ・KAWARAプロジェクトを企画・運営し、地域や社会における自分の役割を浮き彫りにさせ、表現させる。	3.2								
学年部	1年：出会いを大切にし、多様性を受け入れ、円滑な人間関係を構築する。 2年：社会や地域で他者を意識し、自己の存在を活かす学びを行う。 3年：地域とのつながりの中で、他者を意識した責任あるふるまいを身につけさせる。	1年：三瓶研修、キャリア学習、地域連携で他者と協力し良好な人間関係を作る。 2年：総合学習、ボランティア活動、各種体験活動等に積極的に取り組み、自己有用感が高まるよう支援する。 3年：自ら進んで挨拶し、思いやりのある言動を身につけ、諸活動に熱心に取り組ませる。	3.3								
総務部	・江津高校の卒業生というわけではなく一般論として、最近では、社会に出た新任者のコミュニケーション能力不足を強く感じる。また忍耐力がなく、本人の質の向上に繋がらない。とにかく、最低3年間は仕事を継続してほしい。	・以前は、部活等で鍛えられることにより、忍耐力も身につけていたのではないかと感じる。教員と生徒の信頼関係も大切。	・ロードレースなどの鍛錬行事で、生徒の性格等が垣間見られるので、指導に役立てることができる。	・多様化した社会の中で、多くの大人と接して、いろいろな職種を知り、社会との接点を持つことなど、生徒の耐性を養うことに繋がるのでは？							